



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

一般財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

平成三〇年度ミャンマー農業研修生受入事業

元気に三名が来日 二ヶ月にわたる研修開始

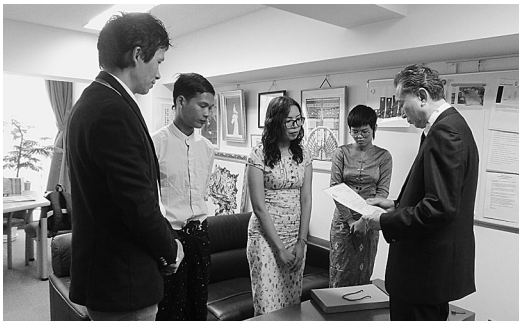
民族衣装に身を包み、鳩山由紀夫理事長を訪問

鹿児島県カピックセンター・広島市など多くのご協力を得て充実の研修

九月二十六日早朝、ミャンマーからの農業研修生が成田に到着した。長旅の疲れも見せず翌日、鳩山由紀夫理事長を敬訪問。二十八日には、鹿児島のカピックセンターに向けて出発した。今年度は広島市のご協力を得て、広島平和記念公園での献花、被爆体験者の講話など、広島での活動も取り入れられた。前半の研修を終えた報告会に参加した本事業担当井田理事の報告を併せて、前半の事業実施報告とする。

今回来日の三名の内、ウインさんは去年来日した一人である。去年はサツマ芋の苗づくり、植え付け、栽培などを勉強した。今年はその後の収穫、保存、加工などを主に勉強すべく、来日した。ウインさんは、昨

年実習した技術を活かし、現地ミャンマーで「友愛ファーム」と銘打った試験農園を運営しており、栽培に關しての技術を現地の人々に教え、サツマ芋栽培の実践活動に従事している。今年には収穫等の勉強に加



研修生の推薦母体である、NLIDからの感謝の手紙を鳩山由紀夫理事長に届けた



来日の疲れも見せず、笑顔で理事長を表敬訪問。鳩山由紀夫理事長も笑顔で応えた



国会議事堂前で記念撮影。ちょっと緊張して、居住まいを正し、日本への礼をつくしてくれた

た鹿児島県カピックセンター、鹿児島大学農学部、特別な計らいをしてくださった広島市役所、見学をお許しくださった島津製作所、ロッテ浦和工場、銚子の方々、ハルカインターナショナルの皆さんを始め、多くの方のご協力を得て、充実の研修スケジュールが出来上がっている。また鳩山友愛塾修了生の皆さんも、多岐にわたってご協力くださり、友愛ならではの研修内容となっている。実りある二ヶ月を祈る。

平成三〇年度 ミャンマー農業研修生受入事業

実施スケジュール(抜粋)

- 九月二十六日(水) 来日
- 九月二十七日(木) 鳩山理事長敬訪問
- 九月二十八日(金) 移動(東京→鹿児島) カピック
- 十月三日(水) サツマイモ栽培(収穫実習) 東農園
- 十月四日(木) 日本文化体験(着付け・茶道) カピック
- 十月六日(土) サツマイモ出荷工場見学 豊栄ファーム
- 十月十一日(木) サツマイモ加工(焼酎) 見学 小鹿酒造
- 十月十二日(金) サツマイモ栽培と加工 澁谷食品
- 十月十七日(水) 有畜複合農業、土着菌の活用
- 十月二十三日(火) 農家ホームステイ 元氣印の菜園畑
- 十月二十五日(木) サツマイモのお菓子作り見学、実習
- 大野地区(森んちゅ、婦人グループ)
- 十一月三日(土) 研修まとめ、閉講式 カピック
- 十一月五日(月) 広島平和記念資料館見学・平和記念公園慰霊碑献花・被爆者体験談拝聴
- 十一月六日(火) 世界遺産宮島見学 厳島神社
- 十一月七日(水) 京都・奈良見学
- 十一月九日(金) 島津製作所 創業記念資料館見学
- 十一月十四日(水) ロッテ浦和工場見学・川越菓子屋横町
- 十一月十六日(金) 鎌倉訪問 鎌倉大仏など見学
- 十一月十七日(土) 理事会へ研修報告・鳩山会館見学
- 十一月十九日(月) 銚子加工工場(ピーナッツ味噌・ひしお(醬)・煎餅生地見学(富士正食品・銚子山十・根本商店
- 十一月二十一日(水) オーガニック野菜(シイタケ・キクラゲ) 見学 ハルカインターナショナル
- 十一月二十七日(火) 帰国



十月二〇日 英語キャンプ・神野地区町内会のご協力で、各国から参加した留学生・研修生が一同に会して、サツマ芋の収穫・ダンスでの交流など、新しい国際交流のかたち。翌日には餅つきも体験



十月二十三日 元氣印の菜園畑・堀之内節子さんのお宅にホームステイ。堀之内ご夫妻と一緒に記念撮影。日本の農家の暮らしを実際に体験することが出来て、色々勉強になりましたと話していた

友愛時評

▼日本統治時代に朝鮮半島から動員された徴用工に關し、韓国大法院(最高裁)が新日鉄住金に賠償を命じる判決を出し、日韓関係に激震が走った。一九六五年の日韓国交正常化の際、難航した交渉の末に締結された請求権協定により「完全かつ最終的に解決」したはずの問題が蒸し返された形となったからである。

▼異例の人事で金命洙氏を大法院長に任命した時点で文在寅大統領も「確信犯」だったという見方もあるが、筆者はむしろ近代的な司法の歴史の浅さを感じ、日本の法曹部では、司法の独立を裁判官が固守したことでロシアとの戦争の危険も現実にあった大津事件をまず教わる。憲法の授業では、自衛隊や日米安保条約に關する憲法判例の論議に頭を悩ませ、国家統治の基本に關する高度な政治性一を有する問題には司法判断を行わないという「統治行為論」にも決着を得るようになる。

▼民主化して三〇年の韓国では、そうした悩みを経験しているのかどうかあやしいほどの司法積極主義である。数年前に長崎県対馬の寺から仏像が盗まれた事件では「元は韓国にあった仏像で、それを日本が盗んだ」との国民の声に迎合するかのよう、韓国の地裁は事実上の返還拒否を決定した。幸いなことに「略奪文化財」を取り返そうとする盗難は続かなかったが、この司法の判断も影響が大きい。

▼文在寅大統領も元々人権派弁護士として頭角を現し、民主化運動を通じて政界入りした。法律家的思考が現実政治に害を為す例は古今東西枚挙に暇がない。韓国の法律家にも「成熟」する時間が必要なのかもしれない。(ヒゲ)

ミャンマー農業研修生受入事業実施中間報告 平和記念公園にて献花・核兵器廃絶の思いを若人が実感

一般財団法人友愛 理事・運営委員 井田安信

羽田空港から飛行機に乗って、鹿児島空港に着き、そこからバスに揺られること約八〇分で最寄りのバス停留所に着きました。そこからセンターの職員さんに迎えに来ていただきライトバンで十五分くらい進んだところ、鹿児島県大隅半島の中心に「カピックセンター」はありました。

平成三〇年度ミャンマー農業研修生受入事業の前半部分は、この「カピックセンター」こと「鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター」で行われており、研修の報告会に出席させていただきますました。

九月二十六日に来日したミャンマー農業研修生の三人（ティンザー・ウィン・チョーさん、ミン・ゾウ・ウーさん、ラ・インザリー・ティン・ウィンさん）は、友愛事務所にて研修のオリエンテーションを受けた後、「カピックセンター」に移動しました。日本を襲っていた台風の影響で、研修の最初のうちは屋外での実習研修ができなかったそうですが、サツマイモの栽培・収穫・加工についての概要説明、実習研修を一ヶ月間受けていただきました。

「イモケンピ」などの加工工場の見学や焼酎造りなど地元の工場を多数見学し、サツマイモ収穫後の甘さを出す保存方法や、日本の焼酎造りのノウハウについて理解が深まり、ミャンマーでの農業に生かすことができる知識や技術を習得できたと報告がありました。なかでも鹿児島大学農学部の高山教授による「有畜複合農業研修」では、オーガニック野菜や有機栽培の講義



十月二十五日 大野地区（森んちゅ・婦人グループ）にてサツマ芋を活用したお菓子作りを実習



十月三日 東農園にてサツマ芋の収穫を実習。大きく育ったサツマ芋にビックリ。歓声が起きる



十月十三日 澁谷食品にて、サツマ芋の栽培、加工について実習。お土産もどっさりいただきました



十月三日 オレンジパークにて、甘いミカンにビックリ。美味しいで、甘連発、沢山のミカンを食べました



十月二日 オキスにて、農産物（野菜）の加工について勉強しました。ゴボウを相手にVサイン

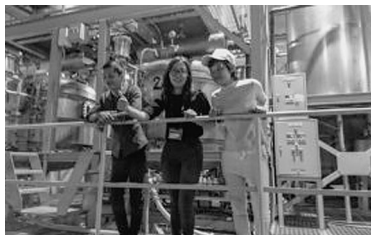


「カピックセンター」では、農村研修の他に国際交流・国際理解事業を行っており、様々な国際理解プログラムをコーディネートしています。地域おこしの視察や実習、日本の文化に触

れる交流会などを体験し、研修生の皆さんが日本の良き理解者になっていただけたことと思いました。

研修報告会では、研修生の皆さんが自国へ戻って、自分達の活躍できる場所から今回学んだことを徐々に広めていきたいと力強い決意表明をいただき、約一ヶ月に亘る研修を終えました。

鹿児島からの帰途では、「広島平和記念資料館」を訪れ、加藤副館長に館内を説明してもらいながら見学



し、被爆体験者の貴重なお話を伺うことができました。研修生の皆さんも真剣に聞き入っており、放射能が食物に与える影響や、原子力発電所に対する日本人の考え方などについて質問がありました。彼等は、話としては聞いていたけれど、実際の原爆の威力を知って怖くなった。街が一瞬で変わる様子をジオラマで見て、原爆の恐ろしさを再確認した。と口々に語っていました。

爆死没者慰霊碑」に献花を行いました。ミャンマーの次代を担う若者に世界平和の意識の涵養を促し、友愛活動を実践できる人材を育成する活動を実感できた有意義な数日間でした。

この事業は、ミャンマー発展のための農業研修、日本との友好促進のみならず、人と人の交流を基調に、世界平和への思いを共有し、強める「友愛」ならではの国際交流事業であると、担当理事として、思いを強くした次第です。



十月四日 カピックにて、日本文化体験の日。和服を着付けていたり、茶道を楽しんだり

小鹿酒造株式会社は、鹿屋市吾平町にある、焼酎を作っている酒造会社です。今回、農業研修生三名は、小鹿酒造株式会社のご厚意で、工場見学をさせていただきました。加えて、小鹿酒造さんのブログで、ミャンマー農業研修生の訪問をご紹介くださいました。ここにブログの内容をご紹介します、研修報告の一環といたします。

ミャンマー農業研修生来社
みなさま おやっとなあ。

爽やかな秋空が気持ちいい、鹿屋市吾平町です。

さて、十月十一日（木）にミャンマーから農業研修生が来られました。この方々は一般財団法人友愛が、国際交流事業として招聘した三名で、一か月にわたり、鹿屋市にある鹿児島県アジア太平洋農村研修センター（カピックセンター）に滞在し、いろいろな研修をされているのですが、サツマイモの栽培、加工流通の研修の一環として来られました。

弊社では、芋選別やもろみの状態、芋蒸し機、など一連の製造工程。加えて小鹿酒造の成り立ちや小鹿農業生産組合設立によ



る産業連携、いわゆる6次産業としての発展などの説明を行いました。

大変礼儀正しく、終始和やかな雰囲気の中、副産物の行方についてなど鋭い質問もありました。その後吾平山上陵にお連れしましたが、そこでカピックセンターの日本語講師ご夫妻ともばったり出会いそのまま小鹿酒造の工場見学にも来られました。

研修生の方々は小鹿銘柄の試飲も行い、紅とんぼや青とんぼの人気が高く、スパイスの使用が割とマイルドで、油を多用するミャンマーの郷土料理との相性も良さそうです。

ガイドの方のお話では、ミャンマーは丁度大隅地方のような環境だとの事で、今後も交流が広がり共に発展できればと祈ってます。



しかし、海外の方々はすごいと思います。私なんて海外に行って勉強とか尻込みしちゃいます（笑）。少しは見習わないとですね。

小鹿酒造HP：<http://www.shochu-kojika.jp>

一帯一路フォーラムに参加して

成都・四〇〇〇年の歴史

東北大学 四年 安達陽菜

こんにちは。東北大学四年生の安達陽菜と申します。先月十五日から二十一日に中国で行なわれた「一帯一路フォーラム」に、日本代表として参加して参りました。

今回のプログラムは、中国国際青年交流センター主催で行われました。ベラルーシ、ブルガリア、エジプト、ドイツ、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、パキスタン、韓国、ルワンダ、シンガポール、トルコ、ウガンダ、ウクライナ、ウズベキスタン、ベトナム、日本の十八カ国から三〇人の代表が集まりました。参加者たちは、主に中国四川省の中心都市成都に滞在して様々な施設を見学するとともに、影絵や切り絵、書道



成都計画展示場 成都の誇る四〇〇〇年の歴史がわかりやすく図示されていた



Dongfeng Peugeot Citroenの成都工場。機械化が進み、洗練された雰囲気だった

できました。

成都は、最古のシルクロードの起点であり、世界初の紙幣が作られた地でもあるそうです。現在の川に四方を囲まれた形は、唐宋の時代にはすでに成立していたとのことでした。四千年以上の人間の歴史がこの地にあると思うと、自然と背筋が伸びました。施設のガイドの話や、ともにこの展示場を訪問した現地の学生の意見を聞くと、成都を誇りに思う気持ちや成都の未来への期待が強く感じられたことも、強く心に残っています。

自由時間に街中を歩いている時にも、印象的な出来事がありました。

胸に「一帯一路・日本」と書かれた名札を下げていた私とドイツ代表に、現地人と思われる男性が話しかけてきたのです。「あなたたちの国は一帯一路に含まれていないのでは？」と不思議そうな顔をしていました。

現在の成都は、中国の国際的拠点として発展しています。しかし、国際空港や道路、天府新区などの大規模な開発の一方で、環境との調和を考えたまちづくりも行なわれているとのことでした。展示場では、成都の現在と未来だけでなく、過去についても学ぶことが



成都大学の学生ボランティアと、朝から晩まで私たちに気を配り、プログラムのサポートをしてくれていた。心から感謝 中央筆者

位置で関係することができるとはまだまだ不透明です。そのような状況にもかかわらず、今回私たちが日本代表として招致してもらったことに改めて感謝するとともに、中国や関係国との絆を一層深めるためにはどうすべきか考えるきっかけになりました。

今回のプログラムの趣旨は、一帯一路構想の詳細を学ぶことではなく、中国や成都に親しみを持つこと、そして中国や関係国との間の若者の交流や協力をどう推進していくか考えることだったように思います。実際、一帯一路構想についての言及は、成都のプロモーションビデオ内の十数秒間や軽い概要説明程度でした。一方で、経済や、ビジネス、文化など様々な側面から各国の代表が意見を述べたり、グループごとに交流を深めたり、成都大学の学生ボランティアと交流したりする時間が豊富に与えられました。

生まれ育った土地や文化、信条など、多くの違いがある私たちでしたが、活動の中で笑い合ったり意見を認め合ったりする際に、そのような違いは障壁にはなりません。今回のように国際社会の中の個人間のつながりを作りそれを伝えていくことが、私にできる国際協調の第一歩ではないかと感じました。

最後になりますが、一般財団法人友愛には、このような素晴らしい機会を与えていただきましたこと、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

一帯一路フォーラムに参加して

人と人の交流

早稲田大学 四年 渡邊 健

今回の一帯一路訪中にあたり、自分の中である目標を設定した。それは「できるだけ多くの人とコミュニケーションをとる」ことである。「現代版シルクロード構想」とも呼ばれる一帯一路。それをテーマにした今回のプログラムの中で果たすべきことは、まさに人と人とのダイレクトな交流によって相互理解を深めることだと考えたからだ。七日間にも及ぶ長いスケジュールを一つ一つたどっていき、きりがなかったので、得たことや学んだこと、目標がどれほど達成できたかなどに軸を置いて報告する。

初日、北京についていた私たちは中国国際青年交流中心の方々に迎えていただき、シンガポールと韓国からの参加者と合流して宿泊先へ移動した。ホテルで初めて今回のプログラムの参加者全員が顔を揃えた。西はドイツ、南はウガンダ。「シルクロード」という言葉からは到底想像もつかないようなスケールの大きさに驚く。それぞれバックグラウンドが全く異なる不思議な集団が形成された。早速イントロダクションから始まり、文化体験といくつかのアクティビティを行った。

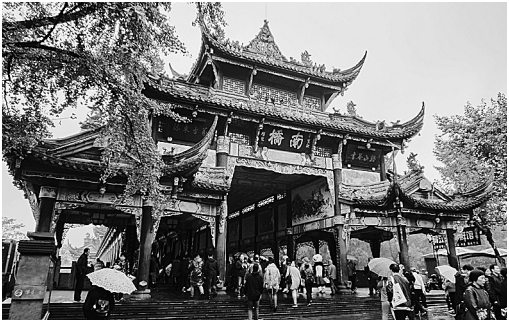
コミュニケーションを大目標に掲げておきながら、スケール感に圧倒されてなかなか言葉も出てこず、いかにも「日本人」という様子でたたずんでいると、決



北京到着後、自己紹介・アイスブレイキングセレモニーにて写真中央筆者



自然と伝統、開発が調和する眺望 市内にはこのような高層マンションが多く立ち並ぶ



成都の水がめ・都江堰へ続く門 三〇〇〇年前の土木技術の粋は今もそのまま使われているという

まって誰かが興味を持って話しかけてくれるものだった。彼らの多くは「日本」や「日本人」のことをよく知っているし、同時にさらに知りたいという気持ちがとても強いのだと感じた。私自身を顧みるとき、他の参加者の出身国について何か知っていることがあるかと言え、その限りではないと感じ、異文化学習の不足を恥じた。

二日目からは成都へ移動しての活動。成都の長い歴史や、それに立脚した近年の目覚ましい成長について、さまざまな資料館や史跡、ときには企業などを訪問しながら学んだ。食事は毎食全員で円卓を囲んで四川料理をいただくのだが、覚悟はしていたものの想像以上の辛さにまた一つ驚いた。この食事の時間が、他の参加者や講師の方々、また現地のボランティア学生らとの交流にもってこいであつた。食べきれないほどの料理をつつきながら、食材や食習慣について、宗教

的禁忌についてなど、本当に数えきれないほど多くの話をする事ができた。食事と会話でワンセットなのも万国共通だとしみじみ思った。

成都での六日間では、抱いていた中国のイメージが大きく変化した。イメージ通りだったのは公衆トイレや人混み、大気汚染くらいのものだ。例えば電子決済。話に聞いてはいたものの、個人商店や屋台にまで幅広く普及しているのには驚いた。そして、細かいところまでよくお金をかけていることも感じた。

行程中に成都市の都市計画博物館を訪れたが、体育館ほどのスペースに成都市全域の精細なジオラマが展開され、光と映像で街の発展がよくわかる仕組みになっていた。また、どんな小さな雑居ビルや駐車場にも必ず受付と警備員が常駐し、訪問客をさばっていた。外資系企業・商店の多さも驚きだった。街中のどこを歩いても、欧米や日本の商店・レストランを見つけることができた。

行程を通してさまざまな知識を得て、日本では絶対にできないような経験をすることができたが、何よりも素晴らしいのはやはり「人との交流」であった。ジョークからシリアスな話題まで、多様な考え方を持つ人同士で深く話し合える機会を持てたことが、自分の今後の人生にとって大きな宝となった。一般財団法人友愛を始め、関係各位、すべての方々に改めて感謝したい。

四面に関連記事



最終日に皆でダンスをした後の集合写真。最終日の寂しさや疲れ、国籍の違いなど、何も意識に上らず、ただただ楽しかった



同じグループの仲間（バキスタン、マレーシア）ウズベキスタン代表のプレゼントの帽子をかぶって、まるで兄弟のように見えた



手を温め合う友人たち（ドイツ、マレーシア、モンゴル）。こうして個人が手を取り合うように、国家が手を取り合う未来が実現できればと感じた。各国から来た仲間たちは皆思いやりがあり、互いに助け合っていた



思い出アルバム

安達陽菜・渡邊 健

「中華餃子」調理体験にて。女子は得意げな様子だったが……出来映えはご想像ください



辛講師に餃子づくりの手順を教わる……上手に出来ているのだろうか？ 果たして味は？



この大量のトウガラシが四川料理の辛さの源泉
色を見せられないのが残念！



国会議事堂前で記念撮影。皆上着を脱ぎ真剣な面持ちでカメラに納まった。注目は二人の女性の衣装



びつくりのお値段で販売されている「鼻セレブ（ティッシュ）」九十四元は、日本円で約千六〇〇円



右はミャンマー特有の模様の民族衣装。左は？ 日本の扇子の模様の生地です。日本模様が人気です



アクティブなパンダたち／成都パンダ繁育研究基地 沢山のパンダを一度に見られて皆大興奮

ひとこま

今月のひとこまは盛り沢山。一帯一路フォーラムに参加した渡邊健さんの目線で選んだ写真も二点ご紹介しました。中国のスーパーマーケットで見つけたのでしよう。日本の国旗付きで、高級品として紹介されているようです。日本では四〇〇円前後で売られている、肌に優しい高級ティッシュ。

来日したウインさんが着ていた民族衣装を、よくよく見たら、なんと扇面をあしらった模様でした。昨年来日の折りに生地を購入し、縫い上げて今年の来日でお披露目です。ミャンマーでは日本の柄は人気があるそうです。それにしても細い体型の彼女たちだからこそ着られる、独特なデザイン民族衣装です。

時事川柳

服部迪夫 作

―報道番組
深読みと深掘りとの差考える

―等身大の人間力
生き方が昭和だったもこそさん

―副治開む五人の女性
肉声に祖国日本の味がする

―地理院泣かせ
軽石の悪戯に泣く北海道

―大ブーム
テニス界なおみの夢が拡散中

―年号が変わる
平成が圧縮機に掛けられる

―青山学院
出雲路を完全走破する六人

―機長とオセロつながり
天才に粋な計らい全日空

―四つんばい走法
タスキから多くを学ぶ女子駅伝

―風台風
高圧線ビュービューと泣く風絵巻

機関紙『友愛』にご投稿ください！

機関紙『友愛』編集部では、皆様のご投稿をお待ちしております。ご自身の活動報告、地域の名物紹介、季節のお便り等、何でも結構です。写真も大歓迎です。皆様のご投稿ください。

締切り：特に設けない。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前までに原稿必着

要 領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。写真も紙焼（カラー・白黒）・デジカメデータどちらでも。

編集後記

◆人生にも賞味期限がある。自分の市場価値とは：時々考える。生きるとは寿命の長さではない。質だ。質とは心の在り方、人生の生き様だ。ダーウインは「強い者が生き残るのではない。賢い者が生き残るのではない。変化に適合できる者が生き残るのだ」という名言を残しました。人の賞味期限とは変化適合の期間であり、市場価値とは変化対応力！そう思う。夢が人生をつくり、目標が人を鍛える。人は出会いによって己を知り、己を磨き、そして己を展く。人生は一度きり。片道切符。振り向くな、振り向くな、後ろには夢がない（寺山修司）人は年令に関係なく、いつまでも変化できる。そしてチャンスは常に自分の中に。一念無限。念すれば花開く（坂村真民）（K）◆日比谷公園の中にある「松本楼」でお食事をする機会を得ました。木々の向こうに、煌々と明かりを灯す洋館は異国情緒に溢れ、見ているだけでワクワクします。ロビーには前号でお伝えした「宋慶齡女史」が弾いていたというピアノが飾られていました。松本楼と孫文先生の縁は深く、その経緯が記されていて、ちょっと驚いてしまいました。「友愛」が産声を上げたのは日比谷公会堂。新たにご縁ができた「宋慶齡基金」の象徴宋慶齡女史と日比谷公園で繋がっていたのです。縁で不思議（も）